

平成22年12月14日

(社) 日本技術士会・近畿支部
機械システム部会 各位

機械システム部会
会長 飯野 勝彦

第26回 機械システム部会 例会開催のご案内

第26回例会を下記のとおり開催しますので多数ご参加頂きますようご案内致します。
機械部門の技術士・技術士補に限らず、経営工学、航空・宇宙、原子力・放射線、金属等
他部門の技術士や修習技術者の方々の参加も大歓迎です。

記

1. 日 時：平成23年1月8日（土）

13時	～13時30分	:	受付
13時30分	～14時30分	:	講演1（長野 恒己 技術士）
14時30分	～14時40分	:	質疑
14時40分	～14時50分	:	休憩
14時50分	～15時50分	:	講演2（千田 琢 技術士）
15時50分	～16時	:	質疑

17時～ 近畿支部賀詞交歓会に参加（自由参加）

2. 場所：近畿支部会議室

3. 講演題目と講師

（1）講演1

講 師：長野 恒己 技術士（金属部門，総合監理部門）

講演題目：高レベル放射性廃棄物と地層処分について

（講師略歴及び講演概要は、〔別紙1〕参照願います。）

（2）講演2

講 師：千田 琢 技術士（機械部門）

講演題目：鉄道事業を支える機械設備とその保全について―出改札機械を中心に―

（講師略歴及び講演概要は、〔別紙2〕参照願います。）

4. 会費 講演会：1,000円

5. 参加申し込み

下記アドレス宛、講演会、懇親会のご連絡をお願い致します。どちらも不参加の場合は、
連絡不要です。

pe_kinki_kikai_system@yahoo.co.jp

（注）迷惑メール防止のためにEメールアドレスの@の前に半角スペースを入れています。申込みの際、
@の前の半角スペースを削除して送信願います。）

以上

〔別紙１〕

講演１：講師紹介および講演要旨

１． 経歴・業歴

長野 恒己

- ・ １９４３年４月生まれ（６７歳）
- ・ １９６６年３月 大阪大学工学部溶接工学科卒
- ・ １９６６年４月 川崎重工業(株)神戸工場造船工作部兼技術研究所勤務
- ・ １９７０年１１月 三菱重工業(株)神戸造船所原子力プラント設計部勤務
(PWR一次系の圧力容器など設備設計)
- ・ １９９０年４月 同上次長
- ・ １９９４年７月 再処理（核燃料）プラント設計部部長
(六ヶ所再処理施設の設備設計とりまとめ)
- ・ １９９７年４月 (株)三菱ハイテック出向・その後移籍 取締役
(原子力周辺設備などの技術統括)
- ・ ２００５年６月 同上退職、ながの技術士事務所開設

２． 資格など

- ・ １９９９年 技術士金属（金属材料、利用）、その後総合技術監理取得
- ・ その他資格 エネルギー管理士（熱、電気）、電検３種、
E A 21 審査人など

講演要旨 「高レベル放射性廃棄物と地層処分について」

地球温暖化防止対策及びエネルギーセキュリティの観点から、政府は原子発電の更なる推進を大きな柱にしている。また、世界も原子カルネッサンスといわれるように、原子力発電計画・建設のラッシュが到来している。日本・フランス・イギリス等は、核燃料の有効利用の観点から再処理する路線をとっており、高レベル廃棄物埋蔵処理場の建設が欠かせない状況にある。この建設に関して、必ずしも消費者の理解が得られているとはいえず、資源エネルギー庁は、エネキャラバンと称して、全国を回り、理解を深めるフォーラムを開催してきている。昨年１０月神戸で開催された時の資源エネルギー庁資料の内容（高レベル放射性廃棄物の特性、地層処分場建設計画の概要）を紹介し、技術士仲間においても理解を深める一助にしたい。

〔別紙 2〕

1. 経歴・業歴

千田 琢（せんだ たく）

1997年 3月 慶應義塾大学理工学部計測工学科卒業

2000年 3月 京都大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻修士課程修了

2000年 4月 ～ 2008年 5月

空調機・昇降機・出改札機械等機械設備の保全管理・

計画・安全管理業務、

出改札 I C カードシステム導入に関連する施工管理業務、

鉄道駅バリアフリー化工事に関連する施工管理業務等に従事

2008年 6月 ～ 現在

出改札機械の保全業務、工事管理業務、

関連協力会社管理及び安全・品質管理業務等に従事

2. 資格など

技術士（機械部門：機械力学・制御）

近畿支部機械システム部会幹事

京都技術士会幹事

講演概要

鉄道事業では安全、快適な輸送サービスを提供するため駅務機器をはじめとする数多くの機械設備が取り入れられ、かつ日常的に保守管理や改良が行われている。本講演ではまずそれらの機械設備について紹介し、その中でも近年特に変化の著しい出改札機械の役割、機能及びこれまでの変化の過程と今後の展開について解説する。また後半では機械設備の保全全般に関して、その方法と実際の現場における具体的な取り組みやさまざまな課題について解説する。